



伊庭庄の歴史を語る会のメンバーによる説明を受けながらのまち歩き



グループに分かれてマップづくり



グループの意見を発表

ワークショップ各班の意見

- A班 まちじゅうに張り巡らされた水路により、落ち着きと澄んだ空気感が漂っている。これだけの水路が保存されていることは素晴らしい。水が流れるところには文化が生まれる。水路が生きられ、水路に愛着が感じられるイベント等を実施してはどうか。
  - B班 このまちの主役は水路だと思うが、背景には伊吹山や織山が見え伊庭集落の風景とのバランスが非常に良い。悠々と泳ぐ鯉、水路をゾーニングして自然の恵みを楽しんでいる。水路で遊んだ風景が、子どもたちの原風景になるのではないか。
  - C班 たらい舟で遊んだという昔話。子どもたちにも体験させてあげる機会があればと思った。重層的な伊庭の歴史も子どもたちに伝えていってほしいと思う。
  - D班 昔に比べ水路が随分減ったと聞くと、まだこんなにも残っているというのが第一印象。ただ残っているだけでなく、生活に溶け込んでいる。舟板塀も本物が残っている。当時を知っている人たちが語り継げる工夫をし、子どもたちの記憶にも残していければと思う。
- 地元の方
- ・今、残っているものを大切にしていきたいと改めて感じた。
  - ・自分が生きてきた場所の良さを再認識させてもらった。
  - ・水路の藻上げなど大変であるが、こみがなくきれいであった。
  - ・毎日見ていると当たり前となり、川がそんなに重要なものとの感覚がなかった。もっと早く、その価値に気づいていれば・・・

ファシリテーター山田圭二朗さんのコメント

- ・風景は自分が生きてきたひとつの「証し」のようなもの。自分だけではなく、一緒に生きているみんなも、過去の人たちも、これからこの場所に生まれ育っていく子どもたちにとっても。これらの人たちに对する祈りが風景に込められていると考える。これが川端さんのいう「死に甲斐のあるまちづくり」なのかと思う。
- ・このまちの風景を作っているのは水路。それが使われなくなってしまったことに対して、どうしていったら良いのかということがテーマになると思う。
- ・このような景観を残していくとき、失った価値に対してどのように新しい価値を創造していくのか。文化的景観は日常生活の中で、どう使い続けていくのか重要となる。

高島市針江地区を視察

～福祉先進地研修～

11月17日の土曜日、今年度の福祉先進地研修会が行われ、49人（住民43人、市職員6人）が参加されました。

今年は、高島市針江地区（旧新旭町）を訪問。針江生水の郷委員会と、NPO法人元気な仲間を視察し代表者からお話をうかがいました。



ガイドさんに案内していただき集落内を視察。カバタの説明を受ける。



「行政に頼るだけでなく、できる人ができる事を地域で行う」と話す代表の谷さん。

【針江生水の郷委員会】

針江の人たちは、美しい湧き水を「生水（しょうず）」、水が湧き出る場所を「川端（カバタ）」と呼ぶ。水の恵みを受け、自然と共生する生活がテレビ等で紹介されたことから多くの観光客が訪れるようになる。来訪者が増えると、ごみの散乱や治安、不法駐車などの問題が発生。これらの問題を解決するために、有志により委員会を設立する。現在の会員は80人。ガイド報酬は高島市で利用できる地域通貨で支払っている。

（以下、美濃部会長のことば）「私たちの活動は針江を観光地にするのではなく地域を守る活動である。この景観は、自分たちの代だけでなく、100年、200年先の地域に繋げていく宝物である。針江が好きという気持ちを持って、自分たちの地域は自分たちで良くする。このことが、まちづくりの基本であると思っている。外部の人から地域の良さを気づきを得た。眠っているものを磨き、新たに価値を創出していくことが文化的景観を維持するうえで大切なことであると思う。」

かけすずし

かけすずし：夏の季語。水と光と風が満ちた東近江市の風景のドラマ性を感じさせます。



風景はみんなのもの

～景観まちづくりワークショップを開催～

東近江市と伊庭町自治会では、11月10日、景観まちづくりワークショップを開催しました。

午前の1部では、元近江八幡市長の川端五兵衛さんを講師に招き、八幡堀の保存修景への取り組みを題材に「風景はみんなのもの」という考え方についてお話をいただきました。



午後からのワークショップには、地元の人、地元以外の人、大学院生、行政職員ら約40人に参加いただき、伊庭集落のまちあるきの後、4班に分かれ景観資源マップづくりを行いました。

普段住み慣れている人とそうでない人、立場が違った方々が「歩いてみて良かったところ」「もったいないと思ったところ」「どうしたらよくなるか」について、意見を出し合いながらマップを作成していただきました。



写真提供：湖国とりびゆぬ社

川端五兵衛さんの講演要旨

●堀は埋めた瞬間から後悔が始まる●

八幡堀は流通の動脈として作られ、生業と生活に溶け込んでいた。不便をきたす物は当たり前のように取り除いてこられた。戦後、生活も変わり堀への愛着が薄れると、堀にヘドロが溜まっていった。やがて、ヘドロに埋まった堀は公害源となり、市民の意識は「責任は行政にあり」が定着。埋め立てて公園と駐車場にするというニーズが高まった。

すでに河川環境整備事業として事業も認可されていた。国の予算もつき、市民の支持もある。観光客も呼べる。現実的な計画案であると誰もが思っていた。しかし、八幡堀の本質は市民の生活排水が原因であり、汚れたのではなく、市民が汚したのである。市民の心の汚れが反映した結果でもあるといえる。観光でもノスタルジア（郷愁・懐古）でもない。市民のためにする。「堀は埋めた瞬間から後悔が始まる」それが青年会議所の合言葉となり、保存修景に向けた取り組みが始まった。

●死に甲斐のあるまちづくりのために●

保存修景図を作成し、県、国に信念を持って何度

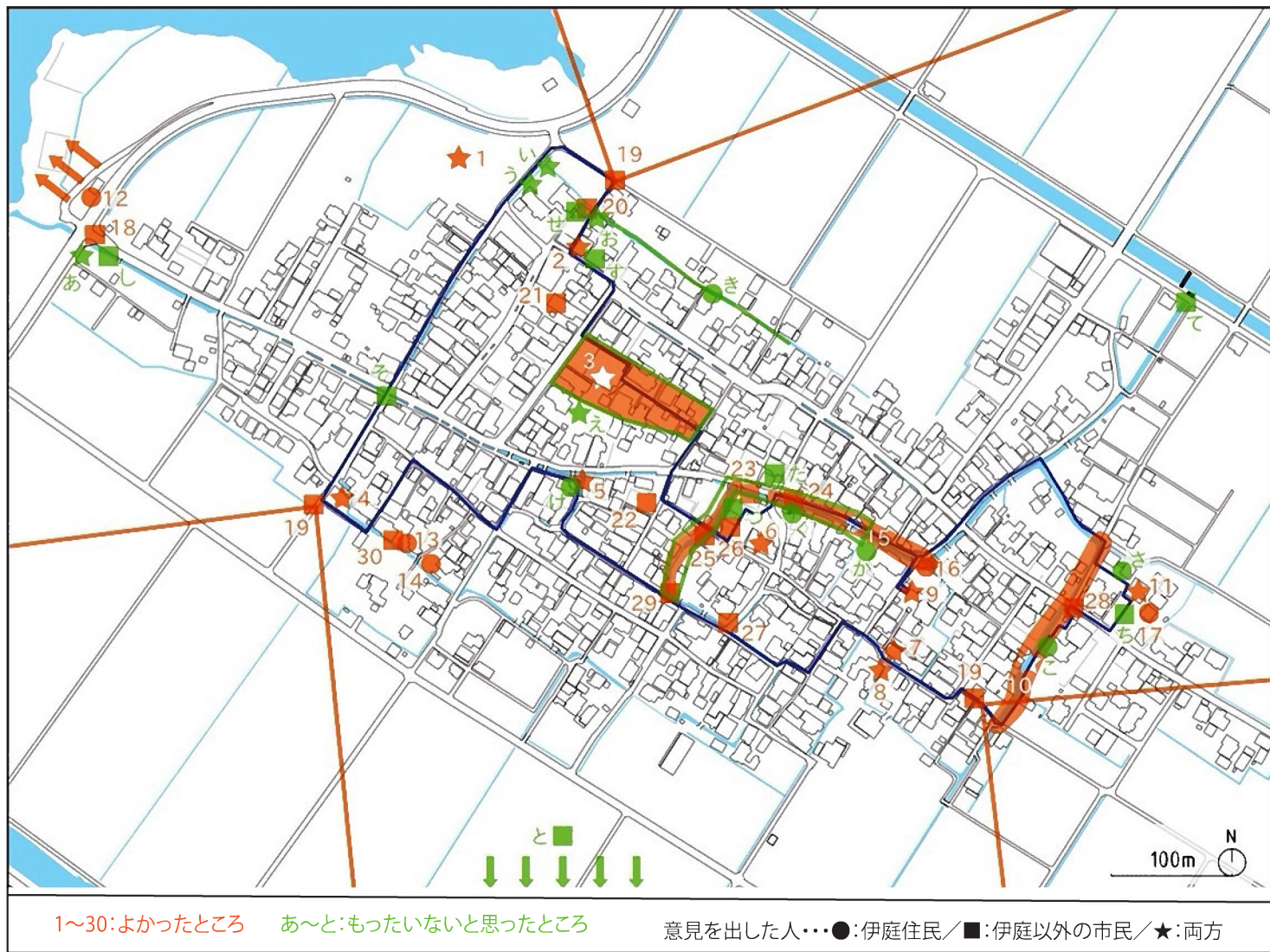
もぶち当たった。ヘドロの処理方法も提案した。巨費を投じて前面浚渫する意義、必要性、つまり何のために行うのかは、市民の死に甲斐のあるまちづくりのために八幡堀の再生を位置づけた。堀の清掃作業も3ヶ月間、毎週行った。市の職員も一市民として参加、やがて市民の見方も変わってきた。心が通じたと思った。パーソナリティーの復活である。

●美しい原風景を共有するために●

風景は外の風景だけではない。心の中にある内なる風景も揃ってこそ成り立つ。内なる風景は、外から窺うことができない。市民一人ひとりの心意気や誇り、人的風土である。

眼前にある風景のことを現前風景という。若いも若きも価値観は違えど無意識に共有している。子どもたちにとっては、今の風景が将来の原風景になる。美しい原風景を持つことは人生にとってかけがえのない幸せである。現前風景は努力すれば変えられる。子どもたちのために現前風景を美しくしようではありませんか。人間は命に限りがある。堀は残そうと思えば残せる。1000年も生き続ける両親と違って、愛情を注いで残していってください。





## 歩いてみてよかったところ

### ★伊庭住民も伊庭以外の市民も挙げたもの

- 1 名古地先のヨシの原
- 2 岡八醤油の蔵 ←
- 3 妙楽寺周辺 ←
- 4 奥出(オクデ)の水路と石垣
- 5 卯時のおり口、神輿を運んだ出発点
- 6 謹節館 ←
- 7 大西さん宅の舟板
- 8 湧き水の出るカワト
- 9 正厳寺
- 10 妙金剛寺川、ホタルゾーン、カワニナのいるところ ←
- 11 仁王堂 ←

・市民:手を入れない具合がうそ臭くなくて良い  
 ・住民:妙楽寺の山門/妙楽寺と四か寺のたたずまい=妙楽寺を中心に左右に二か寺ずつをしたがえ、寺域を掘でめぐらした構え/妙楽堀を手入れしているので美しくなった。ハスも刈って出した/市:源通寺の大屋根と閉まらずの門  
 ・住:玄関が良い/市:集まるところがあるという良さ

### ●伊庭住民が挙げたもの

- 12 伊庭内湖 ←
- 13 大西さんと中村さんの間の舟着場
- 14 友八さんの舟着場
- 15 伊庭川の陣屋橋~正厳寺橋
- 16 田舟の浮かんでいる正厳寺付近 ←
- 17 大濱神社

・住:川の流れと水のきれいさ/蛭/市:川沿いに昔のままの道を歩いたところ。地元の住民になったような気持ち  
 ・住:平安時代末期~鎌倉時代初期の様式を今日に伝え、今年間を通じて祭礼の舞台となっている風格とたたずまい/市:建物がすばらしい/これほど立派な葺きぶきの建物は初めて見た  
 ・野鳥の種類が多く、大事にしていきたい  
 ・背景の山が美しい/田舟を大事に浮かべてある/田舟の水を出す道具

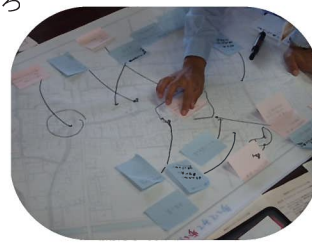
### ■市民が挙げたもの

- 18 伊庭川河口、内湖が見える風景 ←
- 19 田んぼの広がりとの景色 ←
- 20 伊庭桃
- 21 葺き屋根の家
- 22 晩晴苑
- 23 伊庭城跡の石垣・カワト・堀川
- 24 鯉ゾーンと水草、川の中に鯉が悠々と泳いでいるところ
- 25 守国橋から見た水路、守国橋の下の曲った川
- 26 クロガネモチの古木
- 27 護岸のコンクリートを覆うピンクの花
- 28 妙金剛寺近くの川にうつる夕方の陽光
- 29 中下町の水路
- 30 屋根付きカワト

・干拓されてしまったが、ここからの風景こそ原風景ではないだろうか  
 ・北は伊吹山~鈴鹿山脈、南西に三上山、南東に織山

# 景観資源マップ

京都大学大学院 景観設計学研究室 作成



まち歩きのと、京都大学大学院工学研究科の山田准教授の進行で景観資源マップづくりを行いました。  
 伊庭に住んでいる人と住んでいない人が同じテーブルで、まちの魅力と問題点を整理しました。

## 歩いてみてもったいないと思ったところ → どうしたらもっとよくなるか?

### ★伊庭住民も伊庭以外の市民も挙げたもの

- あ 伊庭川河口 ←
- い 裏の川(浦川)が埋まっている ←
- う 船庄さんの船着場 ←
- え 妙楽寺周辺の堀、閉まらずの門、妙楽寺の鳩よけネット ←
- お 大西さんちの目隠し ←

・住:ここから町の方を見た景色もよい/市:この景色をもっと活かすべき  
 ・汚泥を取り除いて、清流を取り戻せないか  
 ・土を取り除いて石垣を復活させる/船着場の整備  
 ・住:堀に水を流したい/市:堀のハスもきれいだが、水を豊かにすべきか/妙楽寺の鳩よけネットを外したい  
 ・市:ガラスブロックなのは残念、川が見えていた方がいい

### ●伊庭住民が挙げたもの

- か 利与門さんの畑の擁壁
- き 西北川が汚くなっている
- く 陣屋のカワト
- け 卯時のおり口
- こ 妙金剛寺川 ←
- さ 高木観音

・川沿いの道を少し広くしてほしい

### ■市民が挙げたもの

- し 金刀比羅神社前の水路
- す 蔵の壁の劣化
- せ 伊庭桃 ←
- そ 三ツ橋(現物が無いのが残念/見てみたかった)
- た 伊庭城跡の石垣付近
- ち 仁王堂をもっと利用できそう ←
- つ 伊庭の旗本・三枝(さえぐさ)氏のカワト ←
- て オオサンショウウオが発見されたところ
- と 須田川のヨシ原(須田川がもともとの伊庭内湖の一部)

・増やせないか  
 ・鎌倉時代を感じられるイベント(木組を利用)や今風のフリーマーケット等できないか  
 ・住:伊庭一番の古樹が茂るこのカワトが裏側になってしまっている。表として出したい/市:U字ブロックがせっかくの風景を台無しにしている

## よかったところ

- 人** 住:花壇を住民が手入れしているところ/河川全体(蛭ゾーンや鯉ゾーン)  
市:子どもが道で遊んでいる/カワトを使う地域の方
- 町並み** 市:空気感/川の流れと瓦屋根の町の風景
- 水** 住:水路、石垣  
市:豊かな水/維持管理が大変そうなのに、ごみがなくきれい/琵琶湖の水運/魚
- 歴史** 市:土を掘り返せば昔の舟着場などが出てくること/各所の舟板の壁/古い石垣

## もったいないと思ったところ

- 町並み** 市:ガードレールや橋の欄干が現代のもので残念/モダンな家と古い家が混在している/赤い鉄製のカワト
- 水** 住:無造作にかけられた橋/伊庭川の鯉を増やしてほしい  
市:子どもが川で遊べないのでは?/川底に茶碗やビンの欠片が沈んでいて危ない/今の時代に合った水路の利用はないものか/ゾーン分け(鯉ゾーンと他のゾーン)

## まちづくりのアイデア どうしたらもっとよくなるか?

- 水路利用のアイデア** 住:夏は水遊び(ゴムボート)  
市:水力発電(生態系を壊さないように調査した上で)/こどもの体験/毎年のお祭りで子どもたちが舟に乗れるようにしたらどうか/たらい舟で遊ぶ/釣り/川からの景色が見られるところをつくったらどうか/鯉を観光などに活かさないか/水路巡りのルートづくり
- 歴史を伝えるアイデア** 住:今と昔の写真を並置/説明板を設置  
市:新しいプレハブ住宅はデザインや外観の統一をした方がよい
- 整備手順のアイデア** ◆伊庭の入り口として仁王堂付近・妙楽寺まわりの堀・伊庭城跡の堀川・伊庭川河口の4箇所から重点的に

## 場所以外の様々な意見